

---

---

## TOKYO FM「SCHOOL OF LOCK!」と「幻冬舎」が共同創設 10代限定文学新人賞『蒼き賞』発表 グランプリは16歳ベニの「孤独星」に決定

---

---

“未来のカギを握るラジオの中の学校”がコンセプトの番組「SCHOOL OF LOCK!」(毎週月～木曜 22:00～23:55、金曜 22:00～22:55、23:30～23:55 / TOKYO FMほかJFN系 38局ネット)と、“未来のカギを描くロックな出版社”「幻冬舎」とのコラボレーションにより創設した10代限定の文学新人賞『蒼き賞』の第1回グランプリがベニの「孤独星」に決定しました。

この文学賞では、作品のあらずじと、第1話のみの、“未完成作品での応募”を実施。全国から3,000に及ぶ作品が集まり、この中から「SCHOOL OF LOCK!」番組スタッフ、幻冬舎スタッフによる選考で、最終ノミネート6作品を選出。ノミネート作品に選ばれた作者は、「SCHOOL OF LOCK!」のPC&携帯WEBサイト上にて、10週間にわたり、週一回の連載を行い、10月27日の第十話で作品を完結させました。

連載中それぞれの作者には、幻冬舎のプロの編集者(相談役)が付き、さらに、作品ごとに「リスナー感想掲示板」を設置。全国のリスナー達からの応援や励ましのメッセージはもちろん、感想や意見などのリアクションを参考にしながら、物語を完成させました。

作品完成後、リスナーによる投票、審査員による審査を行い、グランプリ他優秀作品を選出。11月11日の「SCHOOL OF LOCK!」内で第1回「蒼き賞」受賞作品を発表しました。優秀作品は、2009年に幻冬舎より書籍化され全国で出版予定です。

### <第1回「蒼き賞」>

#### グランプリ:「孤独星」 ベニ

200X年、異常気象により星の光が届かなくなった地球の空から星が消えた。政府は、絶望に満ちた世界を立ち直すべく「星という存在の抹殺」の政策を発表し強制する。反対者は数多くいたものの弾圧され、結局は時代の流れにより星を知らない者が増え、現在——300X年、星という存在は世界から無くなっていた。星に関する書物、音楽、絵画その全てが消され、昼の空にはまぶしさが減った太陽、夜の空にはおぼろに傘をずっとかぶっている月が浮かぶ世界。それが当たり前の世界。時代に飲まれて消えた「星」という存在。高校生・高藤尚人は同じような夢を見ていた。真っ黒な空に光る粒が散りばめられている夢。それはかつて「星」と呼ばれているものの姿そのものだった。あるわけが無い幻想的で心が吸い付くその光がなんなのか？気になって調べる尚人。そして彼は新月の日に図書館で「星」に関する資料を発見する。嬉しさのあまり屋上で思いを叫ぼうとする尚人。そんな彼の眼に飛び込んできたのは・・・給水塔から飛び降りようとしている一人の女の子だった。

## 準グランプリ:「陽のあたる場所」 海央(みお)

目の病気を持つ女の子・日向(ヒナタ)は、海沿いの病院に十年近く入院していた。毎朝屋上から朝日を見る事が、まだ目が見えていた頃からの彼女の日課。日向——陽のあたる場所。それが彼女の名前。「太陽見ると、あたし、まだ見えるんだって思えるから」もう朝日が出てくるかどうか、自分の目で確かめる事は出来ない。しかし、日の出時間を頼りに太陽の光を見ることで自分が日向でいられると思っていた。朝日の日課をこなして病室に帰り、そして唯一目が見える時間「夢の中」へ。…そんな無機質な生活が日向の全てだった。ある日たまたま付けたラジオ番組。その日のテーマは「世界が終わる夜に」何気なく聞いていたラジオ。その時パーソナリティの言ったひとことが彼女の心に大きな影響を与えてしまう。

## 審査員特別賞:「×(かける)」 柚木椅子

「明日の夜、世界が終わるといのはみなさんご存知だと思います。本日をもって全てのネット回線及び電気回線も途絶えるそうです。最後にみなさん、マンガ『空を駆ける』への思い、その他諸々を書き込んでください。」

世界が終わるとい事実が世に広まったのは、今から3ヶ月前。その後世界の終わりについて様々な情報が飛び交ったが、結局のところ多くの人々が釈然としないまま明日世界の終わりを迎えようとしていた。主人公カオルは、引き籠もりでオタクの19歳。大好きなSFマンガ「空を駆ける」の作者が、世界の終わりを前に、話しの結末を明かさずに行方知れずになってしまった事に若干の憤りを感じ、掲示板を立ち上げ管理人を務めていた。そこで交わされた会話から、何故か作者を探し出し、クライマックスを問い詰めるという大役を担うハメになってしまうカオル。死ぬまで引き籠もりでいたカオルが世界の終わりを目前に家を飛び出し、大好きなマンガの最終話を探す旅に出る。

### <蒼き賞 審査員>

「SCHOOL OF LOCK!」図書部・部長の「堀北真希」をはじめ、今回の「蒼き賞」作品テーマとなった「世界が終わる夜に」を歌う「チャットモンチー」、作家「原田マハ」、「やましげ校長」、「やしろ教頭」他「SCHOOL OF LOCK!」職員、幻冬舎スタッフによる選考委員会にて、リスナーからの投票結果を受けて審査。

### <幻冬舎・専務取締役 石原正康氏による第1回「蒼き賞」総評>

第一回の「蒼き賞」は、あらゆる意味で予想を超える事連続だった。まず、10代限定という範囲のなかで、3,000編を上回る応募作は驚きとしかいいようがない。「SCHOOL OF LOCK!」がいくらリスナーとの信頼関係を築いているとしても、創作に立ち向かう10代が3,000人集まったことが、現代にあるだろうか。そして、大半がメールによる応募作であったが、原稿用紙での手書きの作品もあった。自らの世界観を自身の手によって、スナップを効かせて書き上げようという迷いのない意志を感じる。そして、それはメールによる全作品の一字一句からも伝わってきた。そして、作品の質は予想をはるかに超えた。残念ながら候補から落ちた作品にしろ、どれも読むべき美点を持っていた。さらにそこから抜きで候補作は、サイト上の10回にわたる連載を経てそれぞれが見事な作品へと昇華されていった。

グランプリの「孤独星」のベニ氏は、候補作品の作家のなかで16歳と最年少だったが、1,000年後の「星を失った世界」に繰り広げられる淡い恋愛を見事に描くとともに、現代的な深い生死観さえ肌を感じさせる作品だった。また、準グランプリの「陽のあたる場所」は、視力を失いつつある少女の敏感な感覚を描き切り、最後はあたたかな「希望」を心に残してくれる。審査員特別賞の「×(かける)」は、審査員の原田マハさんは「即プロでいける」と高評価した。リスナー票も高く、他の審査員たちも抜群の構成力と読み出したら止まらないその筆力に感心した。

年齢など関係ない。10代のこの3人が、読んでいて体を火照らせてくれる作品を書き続けてくれることを願う。

## < 第一回『蒼き賞』実施概要 >

### ■「蒼き賞」とは…

《文学史上、最高にロックな新人賞。文字通り、蒼い才能を、蒼く光らせる文学賞である。ノミネートされた10代の作家たちは、夏から秋にかけて、リアルタイムに感じた“感性”を、そのまま作品にぶつける。完成された作品を募集するのではなく、未完成の状態でもノミネートと連載を実施するのは、その“ライブ感”を大切にしたいからである。連載中の時間軸に感じた感覚を、そのまま文字に刻んで行く、ロックなライブ・ライティング。これが、10代限定の文学新人賞「蒼き賞」の特徴と意義である。》

### ■第一回作品テーマ

「蒼き賞」では、共通の作品コンセプト(テーマ)を設定する。第一回のテーマは「世界が終わる夜に」。このコンセプトに基づいていけば、ジャンル、内容は問わない。

### ■応募要項

#### ①内容

【1】エンディングまでの大まかな“あらすじ”と、【2】その作品の“第1話”を募集。

※あらすじ1000文字程度、第1話3000文字程度。“あらすじ”は、登場人物や設定、ストーリー展開やクライマックスへのイメージなどを明記。

#### ②対象年齢

13歳から19歳。1988年4月2日～1996年4月1日生まれの方。

#### ③応募期間

2008年5月26日(月)～7月14日(月)

### ■選考過程

5月26日(月)：第一回「蒼き賞」作品募集開始

7月14日(月)：応募締め切り日 ⇒ 選考審査後、ノミネート作品応募者に連絡

8月18日(月)～10月24日(月)：ノミネート作品作者による、週1回のWEB上連載開始  
(※第二回のみ、初回二週間後の9月1日掲載)

10月27日(月)：第話掲載、作品完成

11月3日(月)～11月7日(金)：「SCHOOL OF LOCK!」にて6作品のリスナー投票受付

リスナー投票後、審査員による審査を行い、グランプリ、準グランプリ、審査員特別賞を選定

11月11日：「SCHOOL OF LOCK!」番組内にて、「蒼き賞」発表

2009年初旬：幻冬舎より書籍化・全国出版予定

### ■最終ノミネート6作品(順不同)

「アシタのアタシ」きつね、「陽のあたる場所」海央、「アフターグロウ」くり

「×(かける)」柚木椅子、「孤独星」ベニ、「満月の扉」辻村アズサ

### ■賞品

グランプリには、賞金30万円が授与される。

さらに、2009年、優秀作品は幻冬舎より書籍化、全国出版される。

☆本件に関する詳細：<http://www.tfm.co.jp/lock/aokisho/>